

南三陸町

モアイ  
アイ  
飴

汐風サイダー味



モアイの口づけ。

1960年のチリ地震津波により被害をうけた南三陸町とチリ共和国。震災から30年後の1990年、復興と友好の証として、はるか遠くチリから旧志津川町(現南三陸町)にモアイがやってきました。

そのユニークな外見と「モ=未来に アイ=生きる」の名前から、町のシンボルとして地域に愛され、モアイ像をモチーフにしたオブジェもいたるところに展示されるようになります。

そして、2011年3月11日。町は巨大津波により再びその姿を失い、モアイは流出してしまいます。しかし、国境を越えた「絆」は決して失われることなく、震災から2年後の2013年5月25日、新しいモアイ像がチリのイースター島から南三陸町に贈られました。

本物のモアイが贈呈されるのは世界初の出来事!これを記念しモアイ飴を作りました。ご自分用にはもちろん、ご家族や友人へお土産としてもお勧めの一品です。

※モアイ飴の収益の5%を南三陸町復興のために寄付させていただきます。

「モアイ」  
復興と友好の証

モアイがつなぐ南三陸とチリの絆

「金太郎飴」  
震災と空襲にも負けず

金太郎飴はもともと「金太郎飴本店」という小さなお店が始まりです。本店は明治始、飴売りの露天商から始まり。大正12年の関東大震災、昭和20年3月10日の空襲と2度に渡り焼け出されながらも、飴一筋に励んできました。

困難なことが起きても絶対に負けない!という意味を含め、そのゆかりある金太郎飴を選び商品化しました。



モアイのことが分かる  
メッセージカード付き!



1個 ¥500